

令和 6 年度 県立結城特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆安全・安心な教育環境と豊かな心を育む教育を推進する学校 ◆一人一人の障害の状態等に応じた指導の一層の充実を図る学校 ◆学校教育活動全体をととしたキャリア教育を推進する学校 ◆地域における特別支援教育のセンターとしての役割を深める学校		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成 状況
○地域と連携した防災教育や、栄養教諭、養護教諭等と連携した健康教育、食育教育を行い、自己管理能力の育成に取り組んだ。自ら健康・安全に生活することができるよう保健指導の工夫に努める必要がある。	1 安心して学べる教育環境	①健康の保持増進のための実践力の育成を図る。 ②地域の関係機関と連携した安全教育を実施する。 ③児童生徒が互いに認め合い励まし合う集団づくりを推進する。	B
○資質・能力の 3 つの柱を踏まえた単元計画の作成や教科の目標を踏まえた授業改善に取り組んだ。評価の視点を整理することで、学習状況を適切に把握できるようにしていく。	2 学習活動	①一人一人の学習状況に応じた指導の工夫を図る。 ②学習場面に応じた I C T 活用を推進する。 ③「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進する。	B
○学部間連携を通して、互いに学び合う機会を設定した学習活動を実施することができた。小学部段階から高等部にかけて系統的な体験学習に取り組み、将来の進路選択につながる学びを充実させていく必要がある。	3 キャリア教育	①小学部段階からの系統的なキャリア教育を推進する。 ②自己理解を深め、主体的な進路選択を促す指導の工夫を図る。 ③地域や企業と連携し、地域の資源を活用した体験活動の充実を図る。	B
○地域の特別支援教育の理解促進のため、学校説明会の実施、ホームページを活用した情報発信を行った。地域の特別支援教育の現状について、関係機関と話し合う機会を設定し、課題を共有していく。	4 センターの機能	①幼保、小・中学校、高校への要請に応じた支援の充実を図る。 ②専門家や地域の関係機関との連携強化を図る。 ③地域への特別支援教育の関する積極的な情報発信に努める。	A

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・安全・安心な教育活動を行うための学校体制の充実を図る。	・緊急時対応訓練等を行い、教職員が連携して対応する体制を確認する機会を設定する。	1－①、②	B	○これまでの訓練に加えて窒息に係る緊急訓練を実施し、危機管理に係る実践的な意識を高めることができた。 ●安全・安心に係る校内の連携体制をさらに高めていくことが必要である。 ◇計画的・実践的な訓練を実施し臨機応変な対応のための危機管理意識の向上を推進していく。
		・専門家や関係機関と連携した職員研修を行う。		B	○多面的・多角的な視点から支援の方向性を検討することができた。 ●専門家を計画的に活用し、専門性の向上を図っていく必要がある。 ◇年間を通して、効果的な支援方法について関係機関と連携しながら検討していく。
	・地域や関係機関と連携した学習活動や体験活動の充実を図る。	・お互いを思いやる豊かな心を育成することができるよう、互いに尊重し合える機会(学部間連携等)を設定する。	1－③	A	○学部間連携等をとおして、憧れる自己イメージをもつ機会を設定することができた。 ●自分も相手も大切に行動することや友達の良いところを考える場面を設定していく必要がある。 ◇お互いの良さに気づくことができるようにしていく。
		・地域や関係機関と学習活動の目的を共有し、連携を図りながら学習を進める。	3－③	B	○地域の方を講師に招いた授業、生徒による地域貢献活動等を積極的に行うことができた。 ●地域と相互の理解促進を深める必要がある。 ◇地域や社会と連携・協働し、学びの充実を図っていく。
教職員の 育成及び 指導・監督	・一人一人の学習状況に合わせた適切な支援及び必要な支援の充実を図る。	・教科の見方・考え方を働かせるような発問の工夫を図り、評価の観点を整理する。	2－① 3－①、②	C	○教科の見方、考え方を働かせるような発問の工夫をすることで、児童生徒の多様な考えを引き出し、身につけた力を意識した指導の工夫ができた。 ●観点別評価の視点の整理を行っていく必要がある。 ◇指導内容を引き継ぎ、系統的、発展的な指導ができるようにしていく。
	・教科の見方・考え方を意識した指導の充実を図る。	・身につけたい力を明確にした授業改善ができるよう、職員研修の充実を図る。	2－③	B	○資質・能力の3つの柱をバランスよく取り入れた単元計画についての研修を行い、指導内容や時間のまとまりを考えた授業改善ができた。 ●「単元計画シート」の活用方法について周知していく必要がある。 ◇何を学ばせるかを明確にし、よりよい授業実践へとつなげていく。

対外活動	・本校の教育活動の情報発信をする。	・教育的ニーズに応じた情報発信ができるよう、本校の取り組みを観点別に整理する。	4－③	B	○学校公開等をととして、巡回相談の内容、ビジネス・ライフ科の取り組み、教材教具等の情報発信を行った。 ●ホームページの活用等を通して、情報発信を継続していく必要がある。 ◇教育的ニーズを踏まえた指導や支援について、わかりやすく伝える工夫をしていく。
	・相談支援体制の充実を図る。	・特別支援教育地域連携協議会で地域の特別支援教育の現状について話し合い、関係機関と課題を共有する。	4－①、②	A	○地域の特別支援教育の現状と課題について、関係機関と情報を共有することができた。 ●地域のニーズに応じた研修会等を計画し、地域の特別支援教育の専門性の向上を図っていく必要がある。 ◇特別支援教育の理解を深めるための取り組みを検討していく。
コンプライアンス確保	・人権尊重の視点に立って、個に応じた適切な支援の充実を図る。	・人権尊重の視点に立った支援ができるよう、児童生徒への言葉かけについて研修する機会を設定する。	1－③	B	○児童生徒への言葉かけや支援について、小グループで話し合う機会を設定することができた。 ●引き続き、人権尊重の理念を深く認識する機会をもつ必要がある。 ◇人権に配慮した環境づくりを推進していく。
	・支え合い、協力し合う組織づくりを推進する。	・職員間の連携が図れるよう、目的や目標を共有する研修を定期的に設定する。		B	○小グループでの話し合い、その結果を共有する機会を設定することができた。 ●教育活動の充実のため、同僚・協働性を高めていく必要がある。 ◇職員が協働して生き生きと働ける職場づくりを行っていく。
働き方改革	・業務の効率化を図る。	・相互に連携することができるよう校務の内容や活動計画を明確にし、業務内容の見える化を推進する。	2－③	B	○校務分掌の活動計画や成果と課題について、情報共有し、業務の精選をすることができた。 ●引き続き、業務の見える化を行っていく必要がある。 ◇ICTを活用した業務の効率化を推進していく。
ICT活用	・学習場面に応じたICT機器の活用方法の工夫をする。	・児童生徒一人一人が主体的に学習に取り組めるよう、ICT機器の機能を生かした授業を実践する。	2－②	B	○ICT機器を効果的に活用し、視覚的に気付いたことや課題等がわかるような工夫ができた。 ●個別最適な学びの実現のために活用方法を工夫する必要がある。 ◇ICT機器を操作して、思考を深めたり、表現したりできるようにしていく。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない